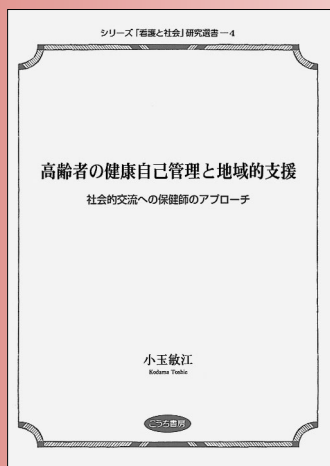


高齢者の自立生活支援の過程を ポピュレーションアプローチの一助に

【評者】柴田則子 神奈川県小田原保健福祉事務所

高齢者の健康自己管理と地域的支援 社会的交流への保健師のアプローチ

小玉敏江(著)



定価 3,150 円(本体 3,000 円+税 5%)
こうち書房(Tel.03-5343-0836)

近年、さまざまな保健福祉制度が改革されており、とくに少子高齢社会の進展に伴う高齢者に関する制度に顕著で、2006 年 4 月の改正介護保険法による地域支援事業の開始や、2008 年 4 月の医療制度改革に伴う特定健診・保健指導の開始は、行政の保健師の活動にも大きな影響を与えている。

これらの事業の取り組みでは、常に“ハイリスクアプローチ”と“ポピュレーションアプローチ”が大切といわれてはいるものの、保健師の確保が十分でないことから、現場では目前にある課題への対応、ハイリスクアプローチが優先されてしまい、ポピュレーションアプローチが後回しになっている現状がある。

こんな時期に手にした本書。ここに登場する主役は 2 地域 17 人の高齢者。事業実施者が選定して対象にした人ではなく、地域の相談の場に自ら参加している人々たちである。著者は、これらの人々を、健康自己管理を行い地域で自立生活を維持していく意思をもつ人々であるとし、その相談の場に参加観察という手法とそれぞれの人へのインタビューで調査し、経済的要因と関係的要因についての分析を行っている。

個別の事例を大切に、地域活動や行政施策に広げていくのは活動の基本であると考えて実践してきた保健師なら、「そうだね」と思わず相槌をうってしまう場面もある。著者の分析は、過去に、活動評価を実施した際に十分評価されていない地域の状況を社会的なアプローチで明らかにしていくもので、科学的根拠という呪文で数値データが優先しがちな分析と一味違う。17 人それぞれの背景を丹念に分析し、地域の特徴を明確にしていき、自立のための自己管理をしている人々の脆弱性をも指摘しており、自己管理できている高齢者に対する疾病予防・介護予防、いわゆる一般高齢者施策としての地域の取り組みの課題も示唆されている。

対象を特定し必要なアプローチを行うハイリスクアプローチの手法からは、地域に密着したポピュレーションアプローチは生まれにくい。さまざまな制度改革にあっても、あわてずに保健師活動の基本となる地域活動を大切にすることがポピュレーションアプローチにつながっていくということを、あらためて感じた。